



## ■ 発達障害とコミック ■

コミックというと娯楽のイメージが強いですが、主人公の追体験ができたり、重苦しいものを優しく表現したり、気軽に読めるからこそその良さがあります。今回は「発達障害とコミック」をテーマに三冊の本をご紹介します。

### ～「見えない違い～私はアスペルガー～」～

モノクロ写真のカラー化を試したこと、ありませんか？

私はといえば祖父母の写真に色が付いたらどんな感じか、という好奇心から一度試したことがあります。実際にやってみて思ったのは、遠く感じていた昔がうんと近づいた、という感覚でしょうか。モノクロに写る祖父母がカラーになることで一層、二人を身近に感じるようになりました。

モノクロの世界がカラーになる。

世界に色が付くのは写真だけにあらず。

「生きづらさ」の正体がわかった時、世界が色付く素晴らしさ。



前置きが長くなりましたが『見えない違い～私はアスペルガー～』（ジュリー・ダシェ原作 マドモワゼル・カロリーヌ作画 花伝社）をご紹介します。この本はフランスのコミックで、主人公の世界がモノクロからカラーになる過程が、コマとして見事に表現されています。

主人公は二十七歳の社会人マグリット。

彼女は多くの「生きづらさ」や困難を抱えて暮らしています。それは音に敏感すぎたり、強すぎるこだわりだったり。他愛のない会話で心はささくれ、多くの「生きづらさ」を抱える彼女の世界はモノクロそのもの。

その「生きづらさ」の正体は何なのか。

彼女が行き着いた先は「アスペルガー症候群」でした。



マグリットが障害に向き合うことで、障害を周囲が知ることで、「生きやすさ」が増えることで、彼女のモノクロの世界に少しずつ色が付き始めます。

主人公マグリットは原作者自身の経験そのもの。彼女の「生きづらさ」をコミックという表現を通して追体験することができます。

自分が見る世界と他人が見る世界は、同じように見えて違うかもしれない。モノクロの写真がカラーになるように、誰もが色付きの世界で生きるために私は何ができるだろう？

「みんな同じだと思い込んでいるものを、とらえ直してみることはない？」

マグリットからそう言われた気がしました。

『見えない違い～私はアスペルガー～』。障害のある人が感じる世界をわかりやすく象



な本です。

## ～「Shrink～精神科医ヨワイ～」(1～6巻)～

二冊目のコミックは『Shrink(シュリンク)～精神科医ヨワイ～』(七海仁原作 月子作画 集英社)です。

シュリンクって何?ヨワイって誰、日本人?という疑問から手に取った本ですが『Shrink』の意味は「縮む、小さくする」。アメリカでは精神科医は『妄想で大きくなった患者の脳を小さくしてくれる』仕事であることから『Shrink』と呼ばれるのだとか。そして「ヨワイ」はこの本の主人公である精神科医「弱井」先生のこと。

このコミックのテーマは精神医療。

パニック障害、大人の発達障害、双極性障害など、さまざまな心の問題や障害を抱える患者と、その背景が丁寧に描かれています。

やはり気になるのは大人の発達障害。

「普通」であることを強いられてきた女性が過去を振り返りながら障害を受け入れていく……ともすれば、重苦しい内容になりがちですが、優しい絵柄とヨワイ先生の穏やかな人柄が、物語全体を軽やかで読みやすいものにしています。

障害があると診断された時の、

「障害の診断を受けた「今」はゴールではありません。ここからがスタートです」

というヨワイ先生の言葉はもともとで、息子も障害者手帳を取得したその日から「生きやすさ」への試行錯誤がスタートしました。

『Shrink(シュリンク)～精神科医ヨワイ～』は「生きづらさ」を抱えた女性が発達障害と診断されるまでの過程がわかりやすく、障害の知識がなくても物語にするりと入り込める作品です。



## ～「発達障害で問題児でも働けるのは理由がある!」～

発達障害のある子と母親といえば、かなしろにゃんこ。さん&息子リュウ太くんを知らない人は少なくないのではないのでしょうか。

発達障害のあるリュウ太くんが社会人になるまでを母親のかなしろにゃんこ。さんがコミックエッセイで綴る、『発達障害で問題児でも働けるのは理由がある!』(かなしろにゃんこ。石井京子監修・解説 講談社)を最後に紹介します。

主人公リュウ太くんは二十二歳。ADHDの注意欠陥障害が重く、生活面での困難や支え方を幼少期、思春期に分けて描かれた本が、

『発達障害 僕にはイラつくリュウがある!』(かなしろにゃんこ。前川あさ美監修・解説)

『うちの子はADHD反抗期で超たいへん!』(かなしろにゃんこ。田中安雄監修)

等、同著者の本は多数あるので気になる方はそちらから入ることをオススメします。

今回ご紹介する本では、就職に向けての親子の障害への向き合い方が描かれています。このシリーズは幼少期編から読んでいましたが、リュウ太くんの成長に勇気をももらったり、かなしろにゃんこ。さんの障害への姿勢に同じ母親として学ぶことが多いです。

『発達障害で問題児でも働けるのは理由がある!』ではコミックの他に就職や仕事に役立つ情報も満載で、

- ・趣味などを通じた社会参加が大事
- ・アルバイトの選び方と活かし方
- ・どんな業務を避けるべきか



- ・ 仕事選びの原点は「好き・得意」
- ・ 就職試験・面接をのりきるコツ
- ・ 知っておくべき障害者雇用のしくみ
- ・ 就職後に気をつけたいこと、等を専門家がわかりやすく解説しています。



発達障害は人それぞれに症状が違うので、必ずしもリュウ太くんの支え方が当てはまるものではありません。現に我が家の息子と似ている部分もあれば全く違う部分もある。けれども我が子以外の症状や「生きづらさ」を知ろうとする努力はやめたくない、と私はいつも思います。『発達障害で問題児でも働けるのは理由がある!』は親子で前向きに就労を目指す姿勢に、多くのヒントや気付きのある作品です。

障害はともすれば重く受け止められがちですが、コミックという表現を通すことで親しみやすく、それでいて正しい知識を得ることができる。『見えない違い～私はアスペルガー～』や『Shrink～精神科医ヨワイ～』、『発達障害で問題児でも働けるのは理由がある!』。

コミックは書籍とはまた違う視点を持てるのでオススメです。(R.I)



## ■ 映画「梅切らぬバカ」 ■

昨年11月にシネスイッチ銀座で公開された「梅切らぬバカ」が年明けもロングラン上映されていました。映画館は障害当事者の観賞を想定し、上映中席を立ってもOK、声出しOK、入退室自由の「フレンドリー上映」も実施。主演の加賀まりこは自身のパートナーの息子(45)がASDです。

占い師の母(加賀)は知的障害を伴うカナートタイプASDの息子(塚地武雅)と二人暮らし。それぞれの自立を目指して、息子をグループホームへ入居させます。しかし、戸惑う息子は自宅へ戻ろうとして騒ぎになり、近隣の住民がグループホームの前で抗議します。

建設前ならいざ知らず、既設の施設に対してここまでやるかな、と僕には思えたのですが、現実はどうでしょう。

一方でラスト近くでは隣の家に引っ越してきた無理解だった男性(渡辺いっけい)があるきっかけから家族ぐるみの付き合いになり「ここにグループホームを作ろう」というホッとする場面も出てきます。

一番考えさせられたのは母親がグループホームを退所し家に帰る途中で息子に「あなたがいてくれて私は幸せ」というシーン。これが同居を指すのだとしたら、少しやるせない気がしました。

タイトルは「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」のことわざから、木の剪定は特性に合わせる必要があり、人との付き合いも相手の特性を理解し向き合うことが大切という意味のようです。(M.N)



## ■「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

「烏山東風の会」では、感染状況を見つつ、十分な感染対策をしたうえで一部の活動を再開することになりました。当面、家族相談会を原則事前申し込み制(やむを得ない場合当日も受け付けます)で2月から再開しています。受付時のお名前とご連絡先のご記入、検温、手指消毒、マスク常時着用などご協力をお願いします。家族相談会は3月以降も第3水曜に開催します。

4月9日(土)には講演会を企画しておりますが、感染拡大状況により開催を再検討する場合があります、随時HPと会報でお知らせします。

■家族相談会 3月16日(水)4月20日(水)午後1時30分～午後4時

烏山病院 発達障害医療研究所デイルーム

申し込み・お問合せ:烏山東風の会携帯 080-3009-1200 [kochinokai@au.com](mailto:kochinokai@au.com)

専門家ではありませんが、同じ親の立場として家族会世話人がお話をおうかがいします。

■世話人会 2月26日(土) 3月26日(土)

会員の方の見学、ご参加をお待ちしています。世話人会の見学・参加、ご意見等は下記にご連絡ください●080-3009-1200 [kochinokai@au.com](mailto:kochinokai@au.com)

各種、お問い合わせ、ご相談もお受けしております。

■「烏山東風の会」ホームページでも、情報を発信しています。



## デイケア写真館

「昨年の漢字」

今年の冬は例年以上に寒いです。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

デイケアでは昨年12月28日に「今年の漢字」について発表しました。その中で私が選んだ一文字は「変」でした。昨年の漢字を「変」にした理由についてはコロナウィルスの変異株の猛威が4月～6月、7月～9月、そして昨年末から現在に至るまで3度あったからです。

現在もコロナウィルス第6波の猛威には収束の兆しがなく、全国の1日の新規感染者数は第5波のピークを遥かに上回っています。昨年はこのような状態でしたので、今年は昨年実現できなかった旅行に行ったり、友達と遊んだりしたいです。

今年は大学卒業の年となるため、今年の漢字では「卒」となれるよう頑張りたいと思います。

コロナウィルスが収束し、明るい1年となれるようにしたいです。皆様くれぐれもお体にお気を付けください。(A・S)

